

キルギス事務所からひとこと

従来行ってきた模写・視写に重点を置いた指導ではなく、美術(図画工作)を通して子どもたちの想像力を養いたいという学校の意向があり、派遣要請につながりました。山本さんは、日々の授業で使う資料作成や絵画制作の実演を行うだけでなく、授業中に声をかけることを大切に、子どもたちに寄り添いながら活動に励んでいました。



企画調査員(ボランティア事業)
乗松一久(のりまつかずひさ)

+one information

「肉好き」な民族の国で

キルギスの人たちは、顔立ちが似ている私たち日本人に対して親しみを込めて「われわれは昔兄弟だった。魚好きが日本人、肉好きがキルギス人になったんだよ」と、よく言います。この言葉のとおり多くのキルギス人はお肉が好きです。そんなキルギスでのお肉にまつわる思い出を。

まずキルギスの伝統的な料理は、遊牧民族ということもあってシンプルな調理法で素材の味を生かしたものが多くの特徴です。市場に行けば、羊肉、牛肉などが部位を余すことなくワイルドに並べられています。ちなみにキルギス人は大多数がムスリムのため、ほとんどの人が豚肉を食しません(豚肉はほかの民族の人たちが市場の隅の方でこぢんまりと販売しています)。

忘れられないのは、先輩隊員のホームステイ先で年始を祝う食事会に参加した際、庭で生きた羊をさばく場面に立ち会ったことです。まず神への祈りから始まり、その後に家の男性がほふります。何といても最初の一突きからその後の手際よさに驚きました。皮を剥ぎ、肉と内臓に分けたら女性の仕事。肉と内臓についた汚れを取ってきれいにし、調理へと進みます。今までそこに生きていた羊の、そのお肉で作られた数々の料理には、おいしいということ以外に何とも言えない切なさ、そして大きな感謝がありました。

私はまさしく「命をいただく」という現場を体験し、これまで何気なく口にしてきた多くの命のありがたみにあらためて気づきました。肉好きの多い国、キルギスならではの思い出深い出来事です。



イラスト ● さかがわ成美



わからないことがあつたらなんでも聞いてね

授業中に教室を歩き回って子どもたちに声をかけることを大切にしていた。



新年を祝う絵を描く授業では、日本の年賀状を紹介。楽しくにぎやかな黒板になった。

しました。こうした活動を続けていくなかで、少しずつですが子どもたちが図画工作の楽しさを実感している様子を見たり、隠れた才能を発見したりしたときは本当にうれしかったです。現在は帰国して児童絵画教室や美術・工芸に関わるワークショップの講師をしています。ゆくゆくは仕事を通じて任地の先生や生徒たちと芸術で交流していけるようになったらいいなと思っています。

* 隊員の活動全般を支援する「ボランティア事業」支援の窓口。また相手国の要望を調査して要請開拓を行うなど、隊員活動全体の運営を担う。



協力して作りましょう!

カラコル市の街の広場に飾る雪だるまの像を先生たちと作る山本さん(左)。材料は発泡スチロールを使用。

そのため私は授業の間、つねに教室を歩き回りながら子どもたちに声をかけ、できるかぎり生徒一人ひとりの習熟度に合わせた指導を心掛けました。授業では複数の例を提示したり、いろいろな表現のパターンを実際に目の前で描いて見せたりすることで想像力が広がるようにしました。さらに、絵を描いたりものを作ったりすることが好きな子どもを対象とした放課後のクラブ活動の指導も大切に

しました。こうして活動を続けていくなかで、少しずつですが子どもたちが図画工作の楽しさを実感している様子を見たり、隠れた才能を発見したりしたときは本当にうれしかったです。現在は帰国して児童絵画教室や美術・工芸に関わるワークショップの講師をしています。ゆくゆくは仕事を通じて任地の先生や生徒たちと芸術で交流していけるようになったらいいなと思っています。



JICA海外協力隊がゆく Vol. 27

子どもたちに寄り添いながら絵を描くことやものを作る楽しさを伝えた隊員の活動を紹介します。
構成 ● 坪根育美

in キルギス 山本果奈

やまもと・かな
出身地:兵庫県 職種:美術
任期:2018年10月~2020年8月(特別任期短縮)



子どもたちの想像力を伸ばしたい!



いまから6年ほど前に旅先のコスタリカで知り合った企画調査員の方からJICAボランティアの活動に興味を持ちました。大学では美術のなかでも染色を専門に学び、高校の工芸と美術の教員免許を取得。卒業後は伝統的な技法を用いて着物や帯を染める会社勤務していました。こうした大学時代の学びや社会人経験などで得た

スキルを幅広く生かせると思ひ応募しました。私はキルギスのカラコル市にあるカラコル第4番学校に赴任しました。キルギスの公立学校は通常1年生から11年生(日本の高校2年生)まであります。私はおもに5年生から7年生に日本の「美術」や「図画工作」に相当する科目を教える活動に携わりました。キルギスの図画工作の授業は、お手本どおりに忠実に描くこと、作ることが重要視されてきました。その影響もあって、お手本どおりにできないことが原因で絵を描くことやものを作ることを自体を嫌いになってしまったりも少なくありません。またうまくできない子どもたちに対する学校側のフォローが少なくこともあり、子どもたちの習熟度や理解度に差があることも課題でした。